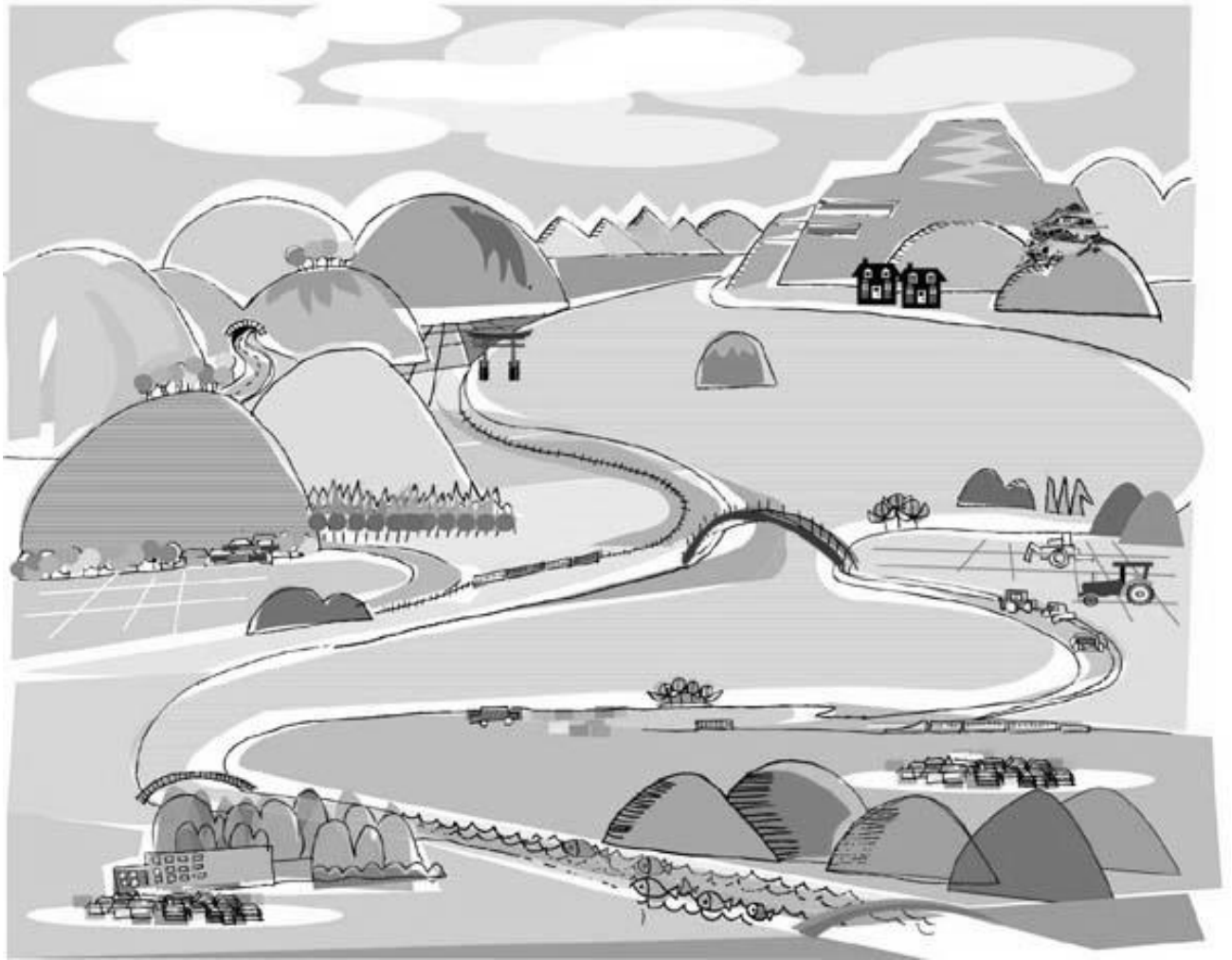


おうみのふるさと物語プロジェクト



石川輝伸
佐藤麻里
塩田余侍美
橘晃照
樋上真吾
山川弘光
山本一男
山本周作

おうみのふるさと物語プロジェクト活動報告

活動テーマ：ふるさと物語で ところをはぐくみ 未来につながる

活動内容：眠っている「おうみのふるさと物語」よみがえりプロジェクト
ビジョン

子どもを中心に、多世代の人々が、地域に対する共通の思いを深める活動「ふるさと物語」を通して、地域を愛する心を育み、より明るく元気な地域を目指します。

ふるさと物語：地域に残る郷土物語(昔話・民謡)を基に、親から子どもへ伝えることができる、今の子ども達にもわかりやすく楽しめる物語



ミッション

1. 「ふるさと物語」で地元への愛着と誇りを醸成します。
2. 多世代の交流を深める場として、お話会のような語り部の会をつくります。
3. すでに活動している団体と連携しながら、活動の輪を広めます。
4. 自然災害と先人の営みの知恵を、次世代に繋ぎます。
5. 「ふるさと物語」で魅力あるまちづくりに貢献します。



課題・背景

忘れられつつある4つの地域資源と活動の方向性

1. 地域固有の文化の継承が必要⇒・昔話・民謡などで地域の情報を得て地域への愛着につなげる。
2. 地域の昔話が未活用 ⇒・古老や図書館に眠る昔話を掘り起こす。
・昔話の現地を訪ねて、五感で味わう。
・物語を楽しむイベントを開催する。
3. 多世代交流の場がない ⇒・語り部がふるさと物語を語ることで、多世代交流を図る。
4. 自然の恵みと脅威との共存 ⇒・例えば野洲川下流域などに残る「恵み」と「洪水の教訓」を調査し、物語の中で伝えていく。

これまでの歩み(概略)

2013年1月

2013年5月

物語の発掘

滋賀県全域の物語調査(1月～5月)

- ・目標発表会の助言を受けて、湖北・湖東・湖南・湖西の4地域に分けて、滋賀県全域の物語を調査し、一覧表にまとめた。
- ・野洲市小南に住む語り部「山本徳治郎さん」のお話を聞いた。

野洲川下流域の物語調査(1月～5月) (守山市の中洲地域)

- ・目標発表会の助言を受けて、地域を野洲川下流域に絞った。
- ・昔話および民謡を収集し、現地フィールド調査を行った。
- ・守山市政策調整部の中塚清氏に活動に参画いただき、地域資源の輝きを物語にした都市ブランド化の話をお聞きした。
- ・写真家の辻村耕司氏から地域の伝統行事の写真や情報を提供頂いた。

★特記事項

- ・現地フィールド調査で、物語の気配や面影を感じとることができた。
- ・物語の発掘では、200字以内の短い物語が多い。
- ・民謡にも物語の要素が存在している。

物語の編集(5月～継続中)

- ・目標発表会の助言を受けて、新たに作成せず、素材を編集する。

表現方法の工夫(4月～継続中)

- ・民謡を現地の画像と一緒にYouTubeで動画化して公開した。
- ・物語カードを作成し、楽しみながら物語に触れ、短い物語も活用する。
- ・物語の現地を巡る自転車ツアーを企画する。
- ・ホームページ・語り部の会の基本構成を設計。

物語の編集



自転車ツアーの経路案

カード表(象徴的な写真)	カード表(物語の要約)
<p>蜷江神社(御蜷池) つぶえじんじや (おつぶしけ)</p>	<p>物語:おツブさま</p> <p>享保六年(1721年)の洪水では、笠原町北にある蜷江神社の御祭神が流されそうになりました。幸いにもタニシの付いた御神輿(おみこし)が社前に止まり御祭神の流出をまぬがれたと伝えられています。</p> <p>これ以来、この地域ではタニシを神の使いの御蛸様(おつぶさま)といって大事にするようになりました。</p> <p>境内には御蛸池を掘ってタニシを放し、タニシを食べると必ず腹痛を起こすと云って、今でも口にすることはないそうです。</p> <p>現在では、野洲川改修により湧水が出なくなり、池が干上がっています。</p>

物語カード案

今後の予定(概略)

2013年6月

2013年11月

物語の編集

物語の編集(5月～9月)

・語り部の会・物語カード・ホームページに使用する物語を選択し、構成などを行う。

表現方法の工夫(4月～9月)

・文章・写真・絵・音楽などの素材を整え、表現を工夫する。
・役割分担を決め、すでにある団体と連携し、物語の語り部や進行などを練習する。



地元の民謡の動画化
民謡の音に合わせて、
地元の風景を挿入し、
歌詞を下部に掲載。

物語の普及

語り部の会の開催

語り部の会を通して、地元に住んでいることへの喜びを感じてもらう。
地元の子供たちや大人に対して、8月・9月ごろ、守山市内で地元の「ふるさと物語」を伝える。
幼稚園とタイアップ、子供と保護者の方にも聞いてもらう。
ふるさと物語の魅力を、“語り”と“音”と“映像(写真や地図)”で紹介。

ホームページの公開

ふるさと物語・要旨を記し、場所情報や現地映像を加えて、わかりやすく紹介する。
受け手が、訪れたい、暮らしてみたいと思ってもらう。

滋賀県の全域の物語調査

滋賀県下の物語を一人百話ずつ全800話を調査した。その一部を紹介する。

湖西地域

びわこ周航の歌物語
高島市(旧今津町)
旧制第三高等学校(現在の京都大学)ボート部の小口太郎が今津で詞を披露し、その後吉田千秋が作曲した。大津三保が関⇒雄松⇒今津⇒竹生島 ⇒長浜⇒彦根⇒長命寺のコースで、琵琶湖の魅力を伝えている。

蕎麦屋の看板(中江藤樹物語)
高島市(旧安曇川町)
蕎麦屋の主人が中江藤樹に看板を依頼した。掲載したところ、ある大名が気に入って売却した。追加でお願いしに行ったところ、多くの下書きが見つかり、真摯な姿勢に恐れ入った。

湖の王者
大津市
応仁の乱がはじまってまもない1468年におこった堅田大責のものがたり。中世から琵琶湖の湖上交通を支配していた堅田衆が、比叡山の僧兵と坂本衆の焼き討ちにあい、沖島に避難します。

三上山のムカデ退治
瀬田・野洲
瀬田の唐橋で琵琶湖の龍王の娘の化身である大蛇が強い男を待っていた。そこに依藤太秀郷(実在)が通りかかり、当時湖の魚を食い荒らしていた三上山の大ムカデ退治を頼まれた。ムカデを退治した藤太は褒美をたくさんもらいその中には三井寺の鐘もあったそう。

湖北地域

天女の羽衣
長浜市余呉町
桐畑太夫が余呉湖畔に降りてきた天女の羽衣を隠して夫婦となったが、天女は羽衣を取り戻して天に帰ってしまう。天女が羽衣を掛けたといわれる木が余呉湖畔にある。

おはなぎつね
長浜市
大通寺に住むおはなというきつねが、大通寺の移築反対派の人々を化かしたり、大通寺が火事になったことを人々に伝えて大通寺を守った。このおはなというきつねは今も大通寺を守っているといわれている。

湖東地域

鍛冶場の石(近江八幡)
砥石地藏(日野)
近江八幡と日野に伝わる、名匠・政宗の弟子である、高木彦四郎貞宗の話で、二つの地域にまたがり物語が伝わっている。

お鐘が淵の由来
東近江市(旧愛東町)
行基上人が大雨の仕業は、谷川の淵に住む魔物の仕業と思い、大事な鐘を投げ与えたところ、大雷雨は見る見るうちに止んだ。それからこの淵をお鐘が淵というようになり、昔から雨乞いをする場所となった。湖東地区には、このような農業と水に関係するお話が沢山ある。



野洲川下流域の物語調査

物語にゆかりの場所



	場所	物語の題名
①	琵琶湖大橋料金所隣	お満燈籠
②	今浜三叉路	お満燈籠
③	大水口神社	明治29年水災
④	下新川神社	すし切り祭
⑤	ちりんさんの池 愛の内明神	河童伝説 愛の内明神
⑥	蜷江神社	おツブさん
⑦	水災記念碑	明治29年水災
⑧	稻荷神社 守山埋蔵文化財センター 野洲川田園空間博物館	稻荷神社 遺跡物語 野洲川歴史年表他
⑨	竜神社	水難と水利水防の神社

物語の要旨

題名	要旨
①②お満燈籠	昔、湖西に八荒という名の立派な力士がおり、湖東の村で相撲が行なわれた。その村に住むお満という名の娘は、八荒を一目見るなり恋に落ちてしまった。お満はたらいに乗り対岸の湖西へと通うが、9月9日目暴風雨と荒波によって湖に沈んだという悲しい恋の物語。
③⑦明治29年水害（大水口神社）	明治29年の大洪水は、100年に1度の大雨であった。大水口神社と浄宗寺には、大洪水の高さを示す石碑が立っている。この時の大洪水は、滋賀県全域でたいへん大きな被害をもたらし、南郷洗い堰を建設するきっかけにもなった。
④すし切り祭（下新川神社）	祭神・豊城入彦命が東国を平定するために湖西から丸竿と丸筏で琵琶湖を渡り、着いたこの地を幸津川と命名した。その祭神を鮎鮎を献上してもてなした伝承が、今も祭りとして毎年執り行われる。それが国の無形民俗文化財に選択された「すし切り祭」だ。なお前日と当日には、長刀踊りやかんこの舞いが数回にわたって奉納される。
⑤ちりんさんの池 愛の内明神	天文8年（1539）、戸田村（今の立田町）の堤防が切れ、多くの人家が流され、十数年にわたり堤防が切れてしまった。戸田村の庄屋も娘の愛さんを人柱（人身御供）として捧げ、野洲川の洪水を鎮めたたという悲しい物語である。
⑥おツブさん（蜷江神社）	享保6年（1721）7月、笠原の堤が切れた時、神社の社殿が流れ出し、ご神体が流れそうになった。しかし神輿（みこし）に多くのタニシが付き社前で止まった。そのためご神体は流されずにすんだ。村人たちは、これはタニシのお陰と感謝し、境内にタニシの池を作り保護したそう。今ではこの池を「御刺様池」と呼ぶようになり、神社も「蜷江（つぶえ）神社」と名づけられるようになった。
⑧水難と水利水防の神（稻荷神社）	中洲地区は、野洲川の北流と南流にはさまれ、昔から再三再四水害に見舞われてきた。そのつど人々は流された家を直し、砂にうまった田畑を掘りおこし復興のために力を注いできた。そして、何とかして水害から暮らしを守ろうとする思いが、愛の内明神や稻荷神社をまつことになったのであろう。そうしたこの地域に暮らす人々と野洲川との関わりについては守山埋蔵文化財センター、野洲川田園空間博物館に写真や地図なぞ資料として残されている。
⑨竜神社	守山市服部町にある小さな祠の神社で、「竜神社復元記」によると竜神社（りゅうじんじゃ）は水難と水利水防の神として祀られ、江戸時代の古文書には「龍神宮」と記されている。

野洲川下流域の民謡調査

民謡にゆかりの地域

民謡にも物語の要素があるため調査した。



	場所	民謡の題名
●	守山市水保町中野	草取り歌
☆	守山市立田	二ホンコの歌
★	守山市笠原	杭打ち歌
▼	守山市新庄	なむあみだぶつ 正月なったらば
▲	野州市乙窪	新庄来い 蛭来い竹次郎さん
■	守山市幸津川	亥の子の餅は
◆	守山市小浜	石搗き歌

民謡の要旨

題名	要旨
草取り歌 (守山市水保町中野)	野洲川の中州地域の大半は、今も昔も田園地帯であり、農作業の雑草取りの労働歌。夏の暑い時も雑草取りを行って大事に育てており、農作物には西瓜でさえ苦勞の種が入っている。
二ホンコの歌 (守山市立田)	洪水が発生しやすい野洲川畔で、護岸工事の杭打ちを共同で行った労働歌。二ホンコとは杭打ちの道具の名前。根棒を握る役を中心に、七尺ほどの杭打ち棒を、数十人が網を引いて引き上げ、杭の上に棒を落として打つ。最初は杭が打ち込みやすいので早いが、次第に間隔が開く。
杭打ち歌 (守山市笠原)	洪水が発生しやすい野洲川畔で、護岸工事の杭打ちを共同で行った労働歌。男女数人が一斉に囃しながら、杭打ち棒を網で引き上げては落として杭を打っている。音頭取りとなる梶持ちは、杭からはずれないように棒を支えている。
なむあみだぶつ (守山市新庄)	揚げ玉のお手玉歌。揚げ玉は、屋外で3個以上のお手玉を順に空中へ投げ上げ、受け止める所作を連続的に行う遊びである。子供達に、小さなときから化粧して町を歩いたら、襲われて妊娠したという物語を題材に、小さい時から化粧しないように戒めていると思われる。
正月なったらば (守山市新庄)	正月を待つ笑い歌。お餅やお酒を麻袋に入れて持って行ったが、知人がいたので便所に隠れた。すると、糞で滑って怪我をしたという面白い出来事を題材としている。
新庄来い (野州市乙窪)	喧嘩歌。守山市新庄(しんじょ)と野州市乙窪(は、野洲川北流を挟んで対面する位置にある。亥の子の日(旧暦10月)に、野洲川の両岸に子供達が集まって、歌の応酬をした。新庄の子は、「乙窪来い！」と歌っており、互いに子供を集めて歌合戦を始めようとしている。
蛭来い竹次郎さん (野州市乙窪)	守山には蛭の集荷問屋があって、全国各地へ蛭を供給していた。蛭を売るため、蛭のいる小川の川べりに行き、乾燥した麦わらや菜種の実を取ったあとの茎を、竹棒の先にくくりつけ、群れの中へ突き出し、蛭をとまらせて生きたまま捕った。
亥の子の餅は (守山市幸津川)	陰暦10月の亥の最初の日(亥の子)に、農村で亥の神(田の神の変身)に対して豊作感謝の祭の歌である。女の子が歌った後、男の子が藁製の亥の子槌で13回地面を叩いて土の霊への魂振りを行い、その後餅・米・菓子などをもらった。
石搗き歌 (守山市小浜)	石搗きとは、家を新築する際に、共同で礎石固め(石搗き)をした労働歌。石搗き棒に網をたくさんつけ、男ばかりでそれを引いて棒を上下に動かして礎石をついた。二人梶取り(シン持ち)が上の句を歌い、他はそれについて囃す。ソリヤの掛け声で網を引きハンド(ドッコイショ)で網を放して石をつく。



携帯情報端末より、バーコードリーダーやQRコードリーダーで画像を読み取ると、メンバーの石川が歌った童謡と、地元の写真による、フォトムービーを楽しめます。

物語の現地フィールド調査

物語の現地を訪問することで、物語の面影を感じとり、
文字情報の内容や背景を確認した。



①お満燈籠(琵琶湖大橋)



⑤ちりんさんの池



⑧稲荷神社



②お満燈籠(今浜)



⑤愛の方明神



⑧守山埋蔵文化財センター



③大水口神社



⑥蜷江(ツブ I)神社



⑧野洲川田園空間博物館



④下新川(ソニカ)神社



⑦水災記念碑



⑨竜神社

おうみのふるさと物語プロジェクトの歩み

時期	内容
12/16	おうみのふるさと物語プロジェクトのグループ結成
12/17	物語資料を蓄積するため、サイボウズ(クラウドサービス)を登録開始
1月~2月	グループ活動の計画づくり、物語アンケート調査 滋賀県全域の昔話を収集してPDFファイル化
1/19	琵琶湖・野洲川・姉川を表すユニバーサルデザイン「オウミジンコ」を全体塾生会で発表し、話題を得る
2/9	目標発表会
3月~5月	滋賀県各エリアの物語の読み込みと記録作業
3/3	野洲川下流流域の語り部(山本さん)ヒアリング
3/17	野洲川下流流域 フィールドワーク (蜷江神社、大水口神社、守山市立埋蔵文化財センター)
3/26	守山市政策調整部の担当者と打合せ
4/7	今年度の活動領域を、野洲川中州区域に決定 守山市役所の政策調整部の中塚さんが参加し、協力を約束 野洲川下流流域 フィールドワーク (野洲川田園空間センター、下新川神社、ちりんさんの池、愛の内明神、蜷江神社、お満灯籠)
4月~	Webサイトの構築
4/25	写真保存用Facebookページの開設
5/1	物語カードを提案
5/5	すし切り祭り視察
5/5-10	野洲川下流流域 民謡発掘と公開
5/12	野洲川でんくうの会と交渉 昭和50年代に昔話調査した西本育子氏の資料受取
5/26	野洲川でんくうの会の北出会長と打合せ

語り部の会の経過と実施予定

1. 地元の語り部からのヒアリングの実施

“川”をキーワードに地元の語り部からのヒアリングを実施

2. 「語り部の会」の手法の調査

- (1) 野洲の語り部、山本さんのお話を聴く。
- (2) でんくうの会の北出様からのお話を聴く。
- (3) 守山埋蔵文化センターの石田様のお話を聴く。(進行中)

3. 「語り部の会」で実施する「物語」のコンセプト確定

«コンセプト»

地元の方に、この地域のふるさと物語の魅力を、“語り”と“音”と“映像(写真や地図)”で紹介する。

4. 活動団体の現状把握

- (1) でんくうの会、紙芝居(野洲観光ボランティア協会)北出様
- (2) 市の活動(HPで)、琵琶湖博物館(語り部)
- (3) におねっと

5. 活動団体との協働のアプローチ

- (1) でんくうの会様(進行中)
- (2) 守山市の政策調整課との協働(進行中)
- (3) 守山埋蔵文化センターの石田様(進行中)

6. 語り部の会の実施予定

- (1) 既存活動団体との協働の予定
- (2) 幼稚園でものがたりの語り部の会の予定
- (3) 地域の文化祭でものがたりの語り部の会の予定
- (4) ホームページ上で動画による語り部の会の予定
- (5) 物語のふるさとを巡る自転車ツアーの予定

7. 催しや情報発信で活用する

- (1) 「絵語り」・・・子どもによるお話を絵にするコンクール
- (2) 「筆語り」・・・高齢者による生涯学習
- (3) 「音語り」・・・葦笛や軽音などで表現。
- (4) 「唄語り」・・・民謡や童謡で表現。
- (5) 「舞語り」・・・舞や踊りやダンスで表現。
- (6) 「祭語り」・・・祭を語り表現する。

ホームページの経過と作成予定



① おうみのふるさと物語とゆかりの場所をエリア毎に掲載

滋賀県に伝わる物語（神話・伝説・昔話・地名由来など）をエリア毎に掲載する。
またそのふるさと物語がどの場所の物語であるか分かるように地図上に表記する。
その物語を読みたい人のために、物語の出典をわかるようにする。
他の情報発信ツールとしBlog、Facebookページ、Twitter、YouTubeも立ち上げる。

② 野洲川物語（下流域物語）とゆかりの場所を掲載

野洲川（下流域）のふるさと物語を掲載する。
またそのふるさと物語がどの場所の物語であるか分かるように地図上に表記する。
写真や動画でわかりやすく見せる。

③ 語り部の人や活動団体を紹介

滋賀県内で語り部活動する人や団体を紹介し、語り部活動が広がることを応援する。
滋賀県内で行われる語り部のイベントを案内し、一人でも多くの方の参加を促す。
地域で既に活動している語り部の団体と連携した企画を考え、イベントを開催する。

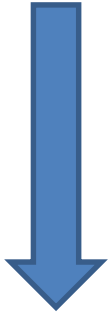
④ スケジュール

6月初め	おうみのふるさと物語とゆかりの場所をエリアごとに掲載
8月初め	野洲川物語（下流域物語）とゆかりの場所を掲載
10月初め	語り部の人や活動団体を紹介

公式ホームページ <http://ohmi-furusato-monogatari.jimdo.com/>
Blog「おうみのふるさと物語」 <http://furusatomonogatari.shiga-saku.net/>
Facebookページ <https://www.facebook.com/ohmi.furusato.monogatari>

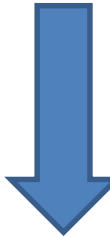
まとめと今後の予定

物語の発掘



- ・滋賀県全域の物語調査
- ・野洲川下流域の物語・民謡調査
- ・物語の現地フィールド調査
- ・古老の語り部からの聞き取り調査
- ・関係団体・人との連携・調査

物語の編集



- ・物語の精査
- ・地域情報と物語の連携
- ・語り部の会の企画・調整
- ・ホームページの編集

物語の普及

- ・語り部の会の実施
 幼稚園
 文化祭
 その他
- ・ホームページの公開

おうみのふるさと物語プロジェクトが 目指す将来像

ふるさと物語の発掘・編集

- ・参加者増加
- ・地域の広がり
- ・意欲 ・ 資金
- ・情報提供



- ・昔話・民謡等の発掘
- ・表現方法の工夫
- ・文化や教訓の伝承

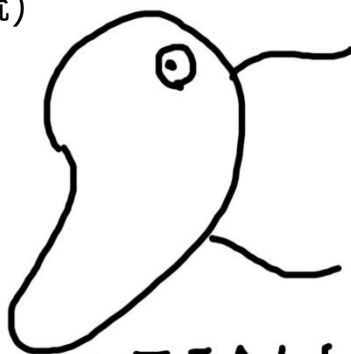
ふるさと物語の 恩恵



ふるさと物語 の普及

- ・地域愛をはぐくむ
- ・物語マーケティングで
販売促進、観光活性化
- ・地域イメージアップ
- ・人の結びつきの強化
(子育て支援・多世代交流)

- ・語り部の会(お話会)の実施
- ・ホームページの作成、活用
- ・ふるさと物語活用推進協議会
- ・ふるさと物語コーディネータ
育成



OUMIJINKO

プロジェクトを通じて、人の輪を
滋賀県全域に広げ、地域活性化に
つながる活動を推進していきます。